



教室前のメディアスペースにて  
「この地球儀、まだあったんや！」

「コロナ禍で、学生生活はどう変わりましたか。」

野瀬「7月ごろから、大人数の授業はオンラインで行われています。講義を受けたり、課題がまとめて与えられたりして、主に家で勉強しています」

堅田「前期は授業自体が全くなく、後期も基本はオンライン授業です。大卒の実行委員もしていますが、今年からは中止になってしまいました」

2人とも普段は片道1時間以上かけて通学しているため、オンライン授業だと早起きで講義が受けられるのが楽です、とのこと。新しい生活様式にも柔軟に対応しているんですね。



正門の前でポーズ!

コロナ禍の中でも、前向きに夢に向かって進む姿に勇気をもらいました。改めて、新成人を迎えられたみなさん、おめでとうございます!

堅田「小学校のころからの夢である教師を目指して、まずは教育実習を頑張ります。コロナが落ち着いたら、旅行など大学生のうちいろいろな経験をしたい。そして、子どもにたくさん愛をあげられる先生になるぞ!」

野瀬「ずっと続けている野球では、全国大会を目指しています。卒業後は、大学での学びを生かしてスポーツ関係の企業に就職したい。そして、将来は起業して自分のスポーツメーカーをもちたいと思っています。心も体ももっと成長して、自信を持った大人になりたいです」

「将来の夢は?」

## ハタチのリアル ~新成人に聞いてみた~

守口市新成人は、男性706人、女性697人。1403人を代表して野瀬賢吾さん・堅田世羅さんに、懐かしの母校樟風中学校で、当時の思い出話や現在の生活、将来の夢などについて伺いました。

「2人が3年生に進級するときに、旧第二中学校と旧第四中学校が統合して、樟風中学校が創立されました。」

野瀬さん(以下、野瀬)「二中(旧第二中学校)のほうが生徒数が少ないので、統合したら肩身の狭いんじゃないのかな、と最初は思っていました。でも、二中より通学時間も長くなったし。でも、とても楽しかったです。特に覚えていたのは体育祭。練習は全然ダメだったのに、本番は一致団結していい順位が取れて感動した!」

堅田さん(以下、堅田)「確かに、お互い嫌だったと思う。最初に新しいクラスに入ったときはなんともいえない空気だったのを覚えています。でも、すぐにみんな仲良くなったよね。きっかけは修学旅行。道中のバスがめっちゃくちゃ楽しかった!」



「印象深い先生はいますか?」

野瀬「橋先生ですね。中学の3年間担任で、いいときも悪いときもずっと見ていてくれた。野球のクラブチームの練習が忙しくて生徒会の仕事ができないときも、相談に乗ってもらって、『やるならそれなりの覚悟を持ってやりなさい』と叱咤激励してくれました」

堅田「私も橋先生。高校受験で失敗したときでもショックで、自分から報告の連絡ができなかったけど、先生が自宅まで来てくれて『今が踏ん張りどころや、堅田ならできる』と励ましてくれたのがとても印象に残っています」

